No. 1

（ 行政視察・~~政務活動~~・~~議員研修~~ ）報告書

令和　6年　7月　12日

白石市議会議長　松　野　久　郎　　殿

議員氏名　角　張　一　郎

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期　　間	令和　6　年　7　月　2　日（　火　）
調査・研修先	天童市役所
調査事項 （研修事項）	子ども・子育て支援事業について
対応者・講師等	天童市健康課長　花輪達也氏 天童市子育て支援課長　早川美由紀氏　　他
概　　要 ① 背景・目的 ② 内容・特色 ③ 主な質疑 ④ 考察 （感想、課題、政策提言等）	① 背景・目的 ・天童市は「子育て支援日本一」を掲げ、子ども・子育て支援事業に積極的に取り組んでおり、子どもの数も減少率が低い。天童市は「子ども・子育て事業」等について、山形県においても先進的な取り組みを行っている。 ② 内容・特色 ○未就学児の子育て支援 ・認定こども園への移行を進める。 ・延長保育、預かり保育、病児保育等多様ニーズ対応が充実 ○就学期の子育て支援 ・子どもの居場所の充実 放課後児童クラブ、放課後子ども教室の利用者は全児童の４６．２％。 ○妊娠、出産期の子育て支援 ・ぴよママ安心パック事業（妊娠後期の健康相談） 妊娠後期を迎えた人をサポート。 ・こんにちは赤ちゃん事業（乳児家庭全戸訪問事業） 生後４ヶ月未満の乳児のいる全家庭に、保健師が訪問. 赤ちゃんが健やかに成長できるよう支援。

白石市議会
-6.7.12
受付

	○子育て世帯の経済的負担の軽減支援 ・ぴよママ応援ギフト（出産・子育て応援給付金） 出産応援ギフト（妊娠届出時）　５万円 子育て応援ギフト（出生届出後）　５万円 ・小中学校入学応援金エール天（１０） 小中学校入学時＝それぞれ１０万円を支給 令和５年度支給総額　１億１，３５０万円 （※所得制限なし） ③ 主な質疑 ○児童虐待防止対策の広報・啓発活動について ・市内の子育て機関に周知依頼、チラシの作成配布 ・民生児童委員の定例会での情報交換　等 ○養育支援訪問事業について ・専門的助言を行う。 令和３年＝７９件　４年＝１１２件　５年９６件 ○子ども食堂について ・１回１万円上限で助成 ・母子寡婦福祉連合会で年６回５０名程度で開催 ・他に２つのサークルがあり、新規もある。 ○子育て短期支援事業について ・保護者が病気等により子どもの世話ができないとき。 ・児童福祉施設等で１週間以内で、一時的に宿泊により預かる。 ・３施設に委託＝令和４年度２人、令和５年度１人 ○病児病後児保育について ・７市７町の相互利用ができる事業。 ・市内４施設で利用可能。令和５年度市内の子ども１１４人、トータルで１８７人が利用。 ④ 考察 ・計画の進行管理を、「児童福祉審議会」において、毎年の点検・評価を行い、取り組みの見直しや改善を行っており、PDCAサイクルの重要性を感じた。 ・放課後児童クラブ（学童保育所）各小学校区に配置されており、また、障害児の放課後等デイサービスも多くあり、保護者の働きやすい環境が充実していると感じた。 ・保護者の経済的な負担軽減策が他市町村より充実していると感じた。

No. 1

（ 行政視察・政務活動・議員研修 ）報告書

令和　6　年　7　月　12日

白石市議会議長　松　野　久　郎　　殿

議員氏名　角　張　一　郎

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期　　間	令和　6年　7月　2日（火）
調査・研修先	東根市総合保険施設「さくらんぼタントクルセンター」
調査事項 （研修事項）	複合施設の設立の経緯及び運営状況等について
対応者・講師等	東根市子ども家庭課長　早坂　康　氏 〃　　課長補佐　笹原ゆう子　氏
概　　要 ① 背景・目的 ② 内容・特色 ③ 主な質疑 ④ 考察 （感想、課題、政策提言等）	① 背景・目的 ・保健ー福祉ー医療を総合的に推進する多機能集積施設であり、建設から既に２０年経過しており、維持管理及び運営の実績は高く評価されている。 ② 内容・特色 ・保育所、子育て支援センター、室内遊戯施設、休日診療所等が設置されている。 ・ふれあいプラザは、施設の中心にあり賑やかな交流の場とされ、施設全体を感じとれる場所となっている。 ・大ホールは５０２席の２層ホールで１階部分は収納可能なロールバックチェアで多様な使い方ができる。 ・近隣に複合施設ゆめピリア（図書館．美術館、市民活動センター）があり市民の相互利用が期待できる。 ・複合施設ゆめピリア（図書館．美術館、市民活動センター）はPFI方式により建設され平成28年に開館している。 ③ 主な質疑 ○設立の経緯について ・平成11～13年当時人口の増加が続き、住みよい活力ある高福祉社会の市民の保健．福祉．医療サービスの拠点となる施設が求められていました。 ・基本構想の中で「子どもたちの健やかな成長」という視点にた

	ち、「子育て支援の行き届いているまち」を目指しており、子育て支援施設と、保健施設にホールを加えた複合施設として、市庁舎敷地に隣接する市有地に建設平成17年にオープンした。 ○複合施設にしたねらいについて ・目指す都市像として「快適空間―安らぎと交流のまち」を掲げており、市民が主役の快適空間としてのシンボルとなるよう、保健福祉及び子育て支援の機能を兼ね備えた総合的な保健福祉センターを建設した。 ○施設の運営管理について ・「NPO法人クリエイトひがしね」に運営を委託し、市民目線での事業実施、細やかな心配りの結果、いまだに来館者の途絶えることのない市民に愛される施設になっている。 ・「NPO法人クリエイトひがしね」は、当時の検討委員会のメンバーが中心になり立ち上げたNPO法人であり、現在は他の施設「あそびあランド」も管理運営しており、1億円を超える事業を行っている。 ○今後の課題について ・建設から20年経過し、順次大規模修繕を進めているが、多大な費用を要することから、財源の確保が課題である。 ・長寿命化工事により臨時休館・貸館制限が見込まれることから、代替機能の提供や、利用者の満足度が下がらないよう工夫が求められる。 ④ 考察 ・20年前にオープンしており、当時としては先進的な施設であり、当時の決断が評価される。 ・保健－福祉－医療施設が連携しており、市民目線での運営が行われていると感じた。 ・施設の管理運営をするために、市民が中心となり自らNPO法人を立ち上げたことは評価される。 ・子どもの遊び場、相談支援一体化しており、多くの親子が来館し賑わっており、活気を感じた。 ・市の施設（市役所、保健福祉施設、図書館・美術館、学校）がまとまった場所にあり、施設間の連携がとれていると感じた。

No. 1

（ 行政視察・政務活動・議員研修 ）報告書

令和　6年　7月　12日

白石市議会議長　松　野　久　郎　　殿

議員氏名　角　張　一　郎

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期　　間	令和　6年　7月　3日（水）
調査・研修先	新庄市立萩野学園
調査事項 （研修事項）	小中一貫義務教育学校について
対応者・講師等	新庄市教育委員会学校教育課長　杉沼一史　氏 萩野学園教頭　　荒川勇一　氏　　他
概　　要 ① 背景・目的 ② 内容・特色・ ③ 主な質疑 ④ 考察 （感想、課題、 政策提言等）	① 背景・目的 ・新庄市は小中一貫校を早期より推進しており、萩野学園は小中一貫校として開校し10年目を迎え、小中一貫義務教育学校としての実績があり、その学校運営についても評価されている。 ② 内容・特色 ・施設一体型小中一貫校である。 ・３小学校が、１中学校と統合し県内初の小中一貫校。 ・平成１７年に小中一貫教育の導入に関する検討開始。平成２４年に基本計画策定。平成２７年に開校。 ・４－３－２ブロック制による教育区分。 ・コミュニティスクールの導入。 ③ 主な質疑 ○４－３－２のブロック制について ・義務教育６－３制は昭和２２年に定められたものであり、当時より児童生徒の発達が２年程早くなっており、５．６年生を中学のステージへと移行している。 ・９年間でリーダーを３回経験できる。（ブリック毎） ○義務教育学校の成果について ・中１ギャップが見られない。

	・教職員が９年間の継続した関わりができ、児童生徒への理解が深まりやすい。 ・高学年が低学年の指導及び世話役をすることにより、お互いに思いやりの心が育まれる。 ・不登校及び問題行動を起こす児童生徒は、ほとんどいない。（学校全体が家族的な雰囲気） ○制服について ・中期ブロックの５年生より、制服となる。 ○部活動について ・希望があれば６年生の１月からの加入を認める。 ・7～９年生は任意の加入とするが、できる限り加入するよう促す。 ・生徒の減少により、設置する部の廃止等の検討が必要になる。 ○コミュニティスクールの導入について ・学校運営協議会委員として、萩野学園では１２名委嘱している。 ・導入してからまだ２年目だが、地域に根ざす「ふるさと学習」の充実に努めたい。 ○課題について ・６－３制からの脱却。児童生徒、教職員、保護者の早期の意識改革が必要。 ・中期ブロック(５－７年生)の位置づけが曖昧にならないよう具体化に検討する必要がある。 ・「課題」として出てくるものの多くは、学校規模的な部分でのものが多く、義務教育学校としては、多少の課題も「成果」として、前向きに捉え取り組んでいる。 ④ 考察 ・小中一貫義務教育学校の成果について、デメリットよりもメリットの方が多いとの説明に説得力があった。 ・子どもの成長に合わせたブロック制により、児童生徒に合った指導ができ、問題行動の対応にも適切に対応していると感じた。 ・学校の再編には、児童生徒．保護者はもちろん、地域住民の理解及び協力は不可欠であると感じた。 ・学校の経営方針の「目指す子ども像」として、「ふるさと＝ふるさとを愛し、進んで関わろうとする子ども」、を掲げており、地域との関わりの大切さを意識した教育の推進を強く感じた。 ・９年生が１年生に直接指導する場面が多くお互いに信頼関係及び思いやる心が育ち、よりよい人間関係が構築されていると感じた。